

## 勿凝学問 139

次期総裁候補が「基礎年金を全額税負担に」と言ったというけど・・・それがどうした？

2008年3月5日  
慶應義塾大学 商学部  
教授 権丈善一

昨日は、朝の8時に内閣府——世の中の人、僕が朝は機嫌が悪いの知らないのか・・・  
って、知るわけないか(￣。￣)ボソ...

社会保障国民会議の雇用年金分科会第1回が、昨日の早朝に開催されたわけである。1日  
経った今朝の新聞をみるとおもしろいもんだねえ。見出しは、

朝日新聞 年金「全額税方式」提案相次ぐ 国民会議で初会合  
日経新聞 年金改革、国民会議で議論スタート、「税方式」検討促す意見も  
読売新聞 [スキャナー] 基礎年金改革、政治課題に 全額税か保険料か  
社会保障国民会議 分科会初会合

これじゃなんだか、雇用年金分科会で、「全額税方式」の議論ばかりが出たみたいだね。  
でも、税方式を立場上言わなければならない人と、税方式を言いたい人、合わせて数名が  
そんな話をしていたけど、そうでない人は、この問題に触れずに、他の話をしていただけ  
のこと。でも、それじゃ、新聞のヘッドライン的にはおもしろくないんだろうなあ。まあ、  
分からないわけではないけどさ。

あっ、毎日新聞は何も触れていないな。うん、記者さんに会わなかったもんな。でもご  
心配なく。格別に「ニュース」になりそうな話はなかったですから。

ところで、その夜は、『報道ステーション』で年金のことをやると、新聞のテレビ欄に書  
いてあったから、録画して銭湯に出かけた。帰宅後、年金特集を観ていて、五指に余るほ  
どの驚きを得たけど、その中の一つ。

次期総裁候補と紹介された人が、講演の中で次のようなことを言っていた。

「平均寿命が延びて払うやつが減れば、こんな制度がもつわけないでしょうが。

誰が考えたってちょっと計算してみりゃ誰だってわかるよ」

(テロップによる。講演そのものはもっと砕けた言葉遣い)

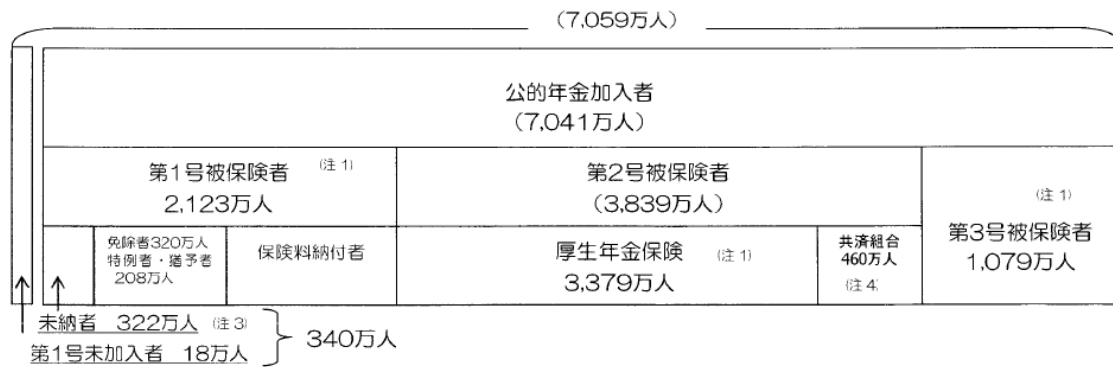
でっ、この次期総裁候補と呼ばれている人は、消費税を10%にして基礎年金を全額税財  
源にと、先日、『中央公論』に書いていたわけだけど・・・よく分からないぞ。どうして、

「平均寿命が延びて払うやつが減れば」基礎年金を全額税財源にすれば、大丈夫になるんだろうか。

明日3月6日の『朝日新聞』の朝刊に、「少子化は、年金財源が保険料だろうが租税だろうが不利に働く」という、僕の言葉があるはず。どうも、次期総裁候補さんの思考回路には僕はついていけなさそうだね。彼は少子高齢化が進んだ時に、保険料から租税に財源を切り替えると年金財政は安定すると考えているようなのである。

そう言えば、『中央公論』に、「年金不信で国民年金保険料の納付率は6割程度にとどまっている。国民皆年金という謳い文句は、もはや死語だ」と次期総裁候補さんは書いているけど、彼の参謀は、ちゃんと文章をチェックしてやろうよ。彼は、国民年金の被保険者には、第1号（約2100万人）、第2号（約3800万人）、第3号（約1100万人）がいること知らないみたいだゾ。

図1 2006年度国民年金制度における未納未加入者  
——未納者は国民年金加入者の4.5%に過ぎない（322万人／7041万人）——



(注2) (注1) 平成19年3月末現在。第1号被保険者には、任意加入被保険者(32万人)を含めて計上している。  
 2 公的年金加入状況等調査の平成13年結果及び平成16年結果を線型按分した推計値。  
 3 未納者とは、24か月(17年4月～19年3月)の保険料が未納となっている者。  
 4 平成18年3月末現在。  
 5 ( )内は、時点が異なる数値を単純合計して得られた暫定値。

なんだか、一事が万事って言葉があるけど、彼が話す他のことも、こんくらいの話なのかもと思ってしまうじゃないかい——これを切っ掛けに、次期総裁候補が、いきなりそうでなくなったりして。。。。まあ、この国にはそうしたちゃんとしたスクリーニング機能はないだろうけど。

ところで、昨日の『報道ステーション』で驚いたことは、他にもいろいろあったけど、その中でも、番組の最後の最後の言葉が、不思議なことにワンダフルすぎて驚いてしまった。

司会 古舘氏

そこで、高山さんの案としては？

一橋大学高山憲之教授

来年2009年からですね、基礎年金の国庫負担割合は2分の1にするということになってるんですね。

これは、ある意味では半分税方式だというふうにみなせばいいわけですよ。税方式の良いところをとってきて無年金の人たちをそのままなくすと、でっ、消費税を一部入れてやるということにしたらどうかと思うんですけどねえ。

古舘氏

税方式の良い部分、そして保険方式の良い部分をちゃんと残してやらないと、これは、年金だけじゃなくて、高齢化社会を見据えたときに、医療介護、この大問題がひかえているわけですから、そうことは簡単にいかないぞというお考えなんですよ。

高山教授

おっしゃるとおりです。

古舘氏

もうひとつ忘れてちゃいけないのは、こういう新たな制度設計は大切であります、その前に、今迷っている人たちを救うためにどうするか、この2つは両輪であります。

では、また<(\_)>ハッ

おっほ〜！今日の報道ステーションは、いつもと大いに違って、なかなか良いんじゃないかい。「医療・介護、この大問題が控えているわけですから、そうことは簡単にいかないぞ」というまとめ方、さらに、「今迷っている人たちを救うためにどうするか」という問の立て方も間違っていない。就職氷河期に学卒を迎えた人たちをどうするか？ 65歳になったら救ってやろう、彼らに税方式の年金を！ じゃないだろう。そんな税財源があるのならば、彼らに今、充実した自立支援策を準備したり積極的な雇用政策をとることの方が、はるかに優先順位は高いに決まってる。

かなり前に、報道ステーションから何度かメールが来ていて、日頃の様子をみている僕は返事を出す気にもなれなかったんだけど、申し訳ないことをした・・・かも。それに、高山先生のすばらしいコメントをみている、僕がテレビに出る必要は、当分の間、まったくなさそうということも十分に分かった。この時間、気が向いたらのんびりと銭湯に出かける極楽トンボ生活は、永久に続けることができそうだ（笑）。

さてさて、「基礎年金を全額税負担に」と言っているのが次期総裁候補、その文章が載ったのが『中央公論』、そしてそしてとビリヤードの玉突きは続いて、今最も困惑しているのが、『読売新聞』の年金担当記者たちかな。まあ、がんばりな。政策は、所詮、力が作るのであって正しさが作るのではないんだよ<sup>1</sup>。どの世界もそう。紙面もそういうもんだらう。

---

<sup>1</sup> 『中央公論』は、現在、読売新聞グループ本社の子会社となっている。そして、この文章を書いた3月5日当時、読売新聞は4月16日に発表することになる年金改革読売案作成の最中であった。読売新聞のトップは、次期総裁候補麻生氏の『中央公論』論文と足並みを揃えなかったのかもしれない。しかしながら、租税方式の年金がどのような問題を持つのかを理解している若い年金担当記者たちが、上意下達の社内文化を持つ読売の中で、がんばりを見せていた。そういう時期に、書き下ろしたのがこの文章である。僕のキャラ

ここは流れに棹さして<sup>2</sup>わが身を守る生き方をお薦めするね（笑）。

---

をしっている人が読めば、がんばっているのは知ってるよ、応援してるからなという文章に読み取れるんですけどね・・・。

<sup>2</sup>念のために。

流れに棹さす＝傾向に乗って事柄の勢いを増すような行為をすること。